的な整備は難しい。


▲水芭蕉群生地駐車場

問 **住民総合健診の受診率が５０％を超えていないが、受診率を上げるためにどのように対応しているのか。**

答 受診率向上の方法を考えており、土曜日検診、早朝検診を継続して行っている。なお、県内で一番高い受診率となっている。

問 **森林環境譲与税基金積立金として約２５０万円が計上されているが、今後この基金をどのような事業に活用していくのか。**

答 森林環境譲与税の残余金約９５２万円を基金に積み立て、今後の森林育成や林業推進、道ばた林業などの財源として活用する。

問 **中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金が昨年度と比べ減少しているが、その主な要因は。**

答 農地の維持管理が難しくなり、７年度から各地区の対象となる農地面積が減少したため、交付金も減額となった。

問 **有害鳥獣対策のための放任果樹伐採業務があるがどのくらいの本数を伐採したのか。**

答 熊を寄せ付けない対策として行った。柿や栗など計４２本の伐採を行った。


▲放任果樹伐採

問 **畜産関係に対する予算が少ないが見直す必要があるのではないか。**

答 物価高騰対策や生産者育成補助金のほか予防接種等を支援している。今後も畜産関係者と意見交換しながら支援していく。

決算特別委員会現場調査

８月 21 日に決算特別委員会の現場調査を実施しました。「国民健康保険診療所空調用冷却設備更新工事」と「水と歴史の館トイレ改修工事」の２か所について担当課より説明を受けました。


▲国民健康保険診療所空調用冷却設備更新工事調査


▲「水と歴史の館トイレ改修工事」調査

◇総括質疑　町長答弁

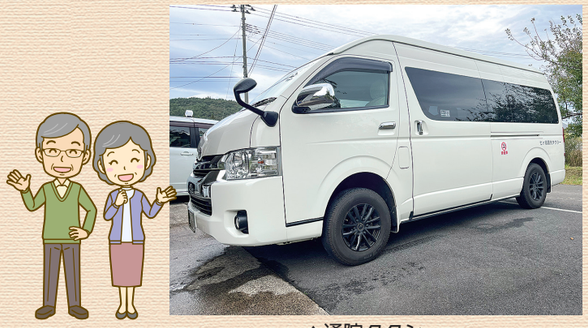
問 **農地減少が進む中、遊休農地を畜産農家の草地や放牧地としての活用も含め、地域活性化と生産力向上につなげる政策を進めるべきではないか。**

答 遊休地は町外所有者が半分ほどで、農地活用には所有者の合意形成が課題となっている。畜産利用には５ｈａ程度のまとまりが必要であり、町として可能な活用方法を引き続き模索していく考えである。


▲遊休農地（干蒲地区）

問 **高齢化や突発的な受診に対応するため、今後通院タクシーの台数を増やす必要があるのでは。**

答 通院タクシーは現在、平均４～５人が利用しており、まずは病院の診療時間や運行状況を確認し、まずは現行体制で対応できるか見極める。利用増加が見込まれれば、改めて検討する。


▲通院タクシー

決算特別委員会審査結果報告書　（抜粋）

令和７年度一般会計外６特別会計並びに２事業会計の決算内容について詳細な審査をした結果、認定することに決定しました。各委員からは次のような事項が付け加えられました。

① ふるさと納税のＰＲ強化に努めること。
② 町の保有する施設・設備は更新時期を迎えているものも多く、日々の点検を励行し、修繕費等の抑制に努めること。
③ 義務教育学校は、規模感を検討し事業費を抑えるべきである。
④ 町の医療体制の充実と介護事業に係る関係機関との更なる連携を図ること。
⑤ 町の指定管理団体には、健全なる経営と収益が増えるよう、適切な指導を行うべきである。
⑥ 高齢者等の通院や買い物難民の救済を図るため、通院タクシーの活用や移動販売の実施内容を見直す等、現状に即した対応が必要である。

以上、町民福祉の充実はもとより持続可能なまちづくり実現に向けた行政努力を求め報告といたします。

決算特別委員長　渡　部　英　幸